平成３０年度第３回「柏崎市男女共同参画審議会」議事録(概要)

日　　時　　平成３０年１１月２２日（木）１５：００～１７：００
会　　場　　柏崎市役所　教育分館３階　第３会議室
出席委員　　新野委員、梅比良委員、近藤委員、新澤委員、杉山委員、須田委員、名達委員、松原委員　８人
（欠席：阿部委員、岡田委員、栗原委員、西巻委員　４人）
事 務 局　　人権啓発･男女共同参画室
総合企画部長 柴野、室長 木村、主幹 飛田、主幹 池田、係長 大橋、主任 長橋
概　　要
次期計画に向けた審議会としての意見について協議検討を行った。

１　開　　会
２　総合企画部長あいさつ
３　会長あいさつ
４　議　　事
(1)　次期計画に向けた審議会としての意見書について
（事務局から資料１について説明）
(2)　次期計画に向けた市民意識調査・事業所調査・中学生意識調査について
（事務局から資料２から４について説明）

議長　今日はできるだけ焦点を絞りやすくするために、皆さんの意見を聞きたい。まず、平成２７年に女性の職業生活における活躍の推進に関する法律が制定され、マニュアルができている。資料１の柏崎の区分けだが、この数値で見れるかは別の問題だが､基準がないと前に進まない｡女性の労働力率が数値化されているが、国勢調査のどういう質問だったのか。

事務局　女性の労働力率は、１５歳以上の女性の人口に占める就業者、もしくは求職中の女性の割合で、就業者は、主に仕事、家事のほか仕事、通学のかたわら仕事、休業者をまとめている。

議長　国勢調査の数値をマニュアルの表に当てはめると、女性の就業や両立が進んでいない､女性の管理職登用が進んでいないセクションに入る｡違和感等はあるか。柏崎の女性の労働力率は４６．９％で半分以下、周りをみるとそうでもない感じもするがどうか。

Ａ委員　ほとんどの方が働いていると一般的に言われていた。M字と関係があるのかと思ってみていた。

議長　数値ではＡタイプとなるが、他のタイプでも柏崎に合う施策があれば推薦していただきたい。女性の管理者登用が進んでいない、これはいつも指摘される。全部を見ているとぼやけるので、一応Ａタイプということで進めたい。課題の例が

あるがどうか。

Ｂ委員　　ほとんど女性を採用していないというのは、女性を採用する必要があるのに採用していないと捉えればよいのか、職業的に消防署等今までは男性が活躍している職場だったが、現在は女性も登用されるようになってきているのに、柏崎ではそのような考えがないというふうに見ればよいのか。

議長　　採用するときには男女と書いてはいけない。消防署は、国の方針として女性を採用するように言われたからなのか、女性を集めていることを全面に出していた。壁をだんだんなくす方がよいのか、ある程度はあっても仕方ないものなのか。

Ｃ委員　　介護の仕事は女性が多い。女性でなければできない仕事ではないが、介護の部分に関しては、女性の方が気づく部分が多い感じはある。入浴介助は同性の方からしてほしいとか、男性の方から介助をされるのは嫌だという女性の方もいる。そういうところは尊重してあげなければならないと思うが、最初からここは女性だけの職場という言い方をするのは違うと思う。男性ばかりの職場でも、女性でやりたいという方がいれば、チャレンジできる可能性は残してほしいと思う。また、男性ばかりの職場に女性が入ることで、新たな気づきが生まれたり、女性が多い職場に男性が入ることで、女性ならではの偏った考えを是正するきっかけがあると思うので、縛るよりは、皆がなりたいものになれる社会であれば良いと思う。

議長　　男女の仕事と育児の両立、企業の働き方、長時間労働等で気が付いたことはあるか。

Ｄ委員　　職場によって違うので何とも言えない。学校現場では土日でも部活動をやったりする。働き方改革の流れで、校長として職員に休む時は休みなさいと指導しているし、自ら休む姿を見せて休んでいいということを示している。教員は真面目なので、なかなか休みを取らない。職員には、自分の生活、余暇が充実してこそ、ゆとりを持って、子どもたちの前で笑顔で立てるし、良い話もできる。だから仕事だけの人にはならないようにしようと話をしている。長時間労働、休暇の取得の促進は職場によって違う。休暇を取りにくい雰囲気があるのかどうかも職場によると思う。柏崎が特に取り組むべきこと、柏崎は何が問題なのかと言った時に、労働力率が極端に低い。柏崎はどうして他に比べて少ないのかという根本を分析し、問題点を明らかにすることによって、対策や行政として必要な取組に行きつくのであって、分析をせずに話をしてもどうなのかと思う。柏崎の問題を調べて、どんなことが考えられるのか、それについて私達に意見をというのであればもっと意見が言える。膨大な資料でどうかと言われても、なかなか切り込めないというのが正直なところである。

議長　　柏崎はどんな特化した問題があるのか挙げてもらいたい。

総合企画部長　　今日の会議に臨むにあたって、なぜ柏崎の女性の労働力率が低いのかを明確にしていかないと、問題を絞ってくださいと言ってもなかなか難しいだろうという

話をしていた。一つの推論、仮説を立ててやるのはどうかという話の中で出たのが、成り立ちとして、一つは中心部が商業であること。商家というのは、一般論的に言うと男尊女卑的な風習、慣習が残っていた。男性の役割と女性の役割というのが比較的明確に分けられていた。それが今の我々の目から見ると、男尊女卑的な成り立ちになっている。それから、柏崎は農業もそれなりにあった。農業は女性も重要な労働力であった。一次産業に従事している日本の人口の比率が極めて少なくなってきているが故に、会社勤めが短絡的に労働力とつながったときに、女性がカウントされないことが多かったのではないかと推測される。もう一つ、柏崎に特徴的と言えることは、製造業が盛んな土地柄である。また石油が産出し、エネルギーの町としても発展してきた経緯がある。製造業というのは、手が汚くなる、力仕事が多いという部分がある。製造業の中でも、柏崎の場合、機械金属業の比率が高く、危ないとか、力仕事に関しても、かなり特殊なことをやるということで、盛んだったが故に、女性の労働者が少なかったのではないか。また、石油精製等は、健康面、汚い、採掘は手掘りの時代もあり、女性には肉体的、筋力的な部分で向かない職業であることが仮説として成り立つのではないかと思う。柏崎の女性の就業率は、正規、非正規を問わず、全体的な傾向として少ないのは間違いないと思う。ここが柏崎における歴史的、文化的な背景にある、柏崎ならではと考えると、そこを解決する方法はそれほど難しくないと思う。

事務局　先程質問のあった国勢調査での労働力率の求め方は、１５歳以上で上限はないので、何歳までという区切りではないことからすると、高齢化というのも率を下げている要因と考えられる。柏崎の労働力総数は７６，４２８人で、１５歳未満を除いた数字になっていると思う。ちなみに男性の労働力は、全国は７０．８８％、新潟県が６９．９３％、柏崎が６８．００％で、男性も低い。柏崎の人は働かないかというと、そうでもない。年齢的な部分もあるとみることができると思う。

議長　柏崎の女性の労働力率４６．９０％は、そのままの数字として東京と比べるわけにはいかないかもしれない。先程の部長の話で、一次産業、二次産業が多いので、機械金属となると男性中心の職場になってしまうのではないかということだが、逆に言うと、三次産業は女性を多くみる。教職員は半々くらいか。

Ｄ委員　校種によって割合は異なる。教員全体はなんとも言えない。中学校は部活動指導があるので、女性は少し敬遠されるかもしれない。

議長　一次産業、二次産業も、今後は力、体力はあまり関係なくなる時代になるのではないかと思う。大学の卒業生も自己規制というか、製造業は嫌だ、メーカーは嫌だ、メーカーは造るだけでなく事務もあるが嫌だという人が結構いる。

資料１に戻るが、具体的な政策の例として、託児所、就職相談、職業訓練、就農支援等あるがどうか。

Ｅ委員　先日、農業関係の人と話をする機会があった。その方は水稲と園芸の両方やっている方で、４、５年前から若い女性が一人勤めたいと入ってきた。水稲の方だ

と機械が大きすぎて女性だとなかなか難しいということで、園芸を主にやっていたが、好きな野菜を作るよう話をしたら、喜んで一生懸命やっていると聞いた。女性の発想で、今さつま芋がブームなので、さつま芋をお菓子や焼き芋、いろいろな料理に使う等して、居酒屋等にＰＲしてくれているという話をしていた。もう一人は、今は農業も全部機械化されて、ヘリコプターも無人ヘリコプターで、皆研修に行って操作しないとだめだと話していた。播種も全部機械で、手作業がなくなってきている。そうすると、女性も機械を使っていかないとやっていけない農業になってきたという気がする。

議長　　最初の方は農協で募集したのか。

Ｅ委員　　いいえ。個人でインターネットか何かでみたようだ。

議長　　個人の人が来て、農協に土地を紹介してもらってということか。

Ｅ委員　　いいえ。個人の土地を何反か任せる感じで、一緒にやっている。野菜も朝取り等で毎日やらなければならないので、休みがないくらいだが、本人は上手に時間を使って頑張っているという話だった。

議長　　次のテレワークやフレックスタイム等、働き方の自由はどうか。

Ｆ委員　　テレワークは、昨年結婚した女性がいて長岡から通っているので、もしも出産で育児休業等になったらテレワークにしようと話をしているが、実際には自分の会社ではまだ導入していない。フレックス制も考えてはいたが、管理が難しい。会社で一番問題になっているのは、家族の具合が悪い等で休みをとると、周りの支えが重要である。一人は介護で、時間短縮を実施している。８時３０分就業だが、１０時３０分に来ることで随分精神的に救われたようだ。妻が手術をし、小さな子どもがいる人は、5時３０分にすぐ帰れるように周りがサポートしている。介護、育児、自分が病気になった時に心置きなく休んでもらえる環境づくりをしなければならないと感じている。

人権啓発・男女共同参画室長　市民意識調査を見ていただきたい。先程柏崎市の特徴があったが、３ページの男女の地位の平等で、柏崎が特別ではないと思うが、「学校教育の場で」は、６２％の人達が平等であるという認識を持っている。社会に出ると変わると言われているが、「社会全体として」を見ると、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が約７割となっている。これは今日お配りした「ひとりひとりが幸せな社会のために」を見ても同じような数値になっている。次に４ページの「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」では、男性と女性では少し考えに違いがある。「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が男性５６．９％、女性６２．５％が否定的な意見を持っている。調査当時の全国の数字は、女性が５１．６％、男性が４６．５％で、否定的に考えているのは柏崎市の方が多い。なぜかを考えると、柏崎の場合は周り、近い所に子どもを見てくれる環境があって、全国に比べれば、夫婦共働きができるという感じが調査結果から分かる。８ページのワーク・ライフ・バランスの関係だが、男性も女

性も、希望は「仕事と家庭生活をともに優先したい」「家庭生活を優先したい」が多い。ところが現実となった時に、特に男性は仕事を優先している。逆に女性は、家庭生活を優先している割合が結構高い。男性が仕事をしている関係で、誰かが子どもを見なくてはならないところがあり、現実女性が家庭を担っているところが多いと思う。１０ページの男性の育児休業に関するところだが、「男性も育児休業を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」の数字が非常に大きくなっている。事業所の環境を整えていく余地が大きいと考えられる。ちなみに市役所の中はどうだったのか、男性の育児休業について数字を調べてきた。平成２２年度以降、２９年度までの調査の中で取っている人は３人しかいない。平成２７年度に１人、２８年度に２人、２９年度はなし。女性が取る時は、ほぼ年単位で取るが、男性は一週間単位などで、一月取るような状態ではない。３２ページの「男女共同参画社会を実現するために、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思うか」では、「仕事と子育てや介護との両立のための制度の普及、定着を図る」や「保育サービスや介護サービスを充実する」という要望が多かった。

Ｇ委員　　柏崎の特徴を皆さんが合意をしたうえで、次に何が必要かだが、今国が求めている強く方向を出さなければならないものを取り入れつつ、遅れているところをどうやって施策で取り戻すか、男女共同参画が他の地域に離れないで底上げをしていくかという考え方をしていくしかない。全体のアンケートの中に柏崎の特徴がいくつか出ていた。記述式の中に、４０歳前後の女性が男女共同参画という活動や存在を知らないという複数回答があった。そういうところを少しずつ拾い上げて、糸でつなぐようなことをしていくしかない。いくつか今回こういうのに絞りましょうと言われたところを皆さんが合意をしていただければ、次は新しく追加することをまとめていけば形になると、皆さんの意見を聞いて考えた。こんなことがあったらいいという具体的な施策の方向性を出して、担当課の方にいかに必要かという文章が書けて、市民に対しては、この地域はこういう特徴が見受けられるので、遅れている点を克服し、良い点は伸ばすために、こういうことがしたいということが伝われば、今回はよいと思う。男女共同参画は、絞るという単純な言葉ではいかない施策である。どこかに光を当てるのではなく、本来は全部に当たらなければならない。今回はここに光を当てるという言い方をせざるを得ない。事業の峻別のような形で、今回はこれを切り捨てて、これをやるというものではないと思う。まだ光が当たらない場所があるのではないかということをいつも持っていてもらわなければならないし、今は与えられた資金の中では全部はできないからここに絞ってやるということを皆に周知しながら、現実的にその仕事ができるかだと思う。そういう方向で皆さんが読み込んで意見を出してくれれば、事務局がまとめてくれると期待している。

議長　　今言われたことの裏付けになるのがアンケートだが、アンケートを行うことは

予算的に大丈夫なのか。

人権啓発・男女共同参画室長　意識調査に関しては、確保すべく財政当局に要求をしている。

議長　その辺の提言も入れておきたい。意識調査の意見を聞きたい。市民意識調査と事業所調査、中学生意識調査がある。３種類あるがどうか。

Ｃ委員　事業所調査だが、回収率が３９％というのはすごく低いと思う。事業所の意識も非常に大事だと思うし、このアンケートを事業所がもらうことで自社の取組はどうなのかと考え直すきっかけになるものであればよいと思う。企業にアンケートや調査はいろんな所からくるが、大抵は回答しなければならないものと思って私達は回答しているが、他の企業はどのように考えているのか気になった。

事務局　他の調査の数字は持っていないが、事業所の回収率は低い。３９％は良いという感じがする。委員さんが言われたように、アンケートを見てもらうことが啓発としても効果はあると思う。

議長　中学校は、アンケートをやる時は教室でやるのか。

事務局　持ち帰って回答し、回収だけ学校にしてもらった。

人権啓発・男女共同参画室長　先生に書いて出すように言われると、回収率は高くなると思う。予算が確保できれば、校長先生に対してお願いに上がりたいと思う。

議長　アンケートは出した方がよいか。

Ｃ委員　出した方がよいとは思う。

Ｂ委員　優先順位からすると、事業所が一番。学校は答えが決まっているような、今までとそんなに変わらない気がする。やれるなら全部やった方がよいとは思う。

Ｇ委員　中学校は先回初めてやった。やったりやらなかったりすると、比較が難しくなる。予算はどうか。

議長　中学校の予算はそんなにはかからないのではないか。データ分析の費用はかかる。

人権啓発・男女共同参画室長　配布と回収には、あまりお金はかからない。

議長　アンケートは多岐にわたってたくさん問題があるが、質問がいるかいらないか、聞き方はあまり変えてしまうと経年で比較ができにくくなってしまうが、誘導尋問的や意味のない聞き方は変えていいと思う。

事務局　アンケートを見て感じたことだが、１１ページのワーク・ライフ・バランスについてを見ると、男性と女性の感じ方が違う。「２職場に取りやすい雰囲気がないから」を感じている人は、男性よりも女性の方が多い。「６上司や同僚の理解が得られないから」は、女性が２３．７％、男性１１．３％。女性自身の立場に立つと環境ができていないが、男性はそれなりに環境はあると思っている。１７ページの地域活動・社会参画について、女性はあなた自身が、あなたが男性の場合は妻・母親など身近な女性がどうかだが、「ＰＴＡや町内会などの代表を依頼された場合どうか」は、女性は４４．２％、男性は１９．８％が「断る」で、「知識や能力のある分野なら引き受ける」が１９．６％という状況である。「市の審議会等の

委員」については、「断る」が女性は６０．６％、男性は３２．０％だが、「知識や能力がある分野なら引き受ける」が男性は女性の倍くらいになっている。この辺は男性と女性の意識の違いがある。１８ページの「５女性が責任ある役を引き受けたがらないから」は、女性が２９．８％、男性が４２．４％となっている。男性に比べると、女性自身は引き受けたがらないと思っていない。この辺りが意識のずれを感じる。３２ページでも「３審議会などの政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する」の賛成が、女性は１５．５％、男性は２４．２％で、男性と女性の意識の違いがデータから読み取れる。その辺が地域における女性活躍が進まない一因になっていると思う。

Ｇ委員　　柏崎の女性は、表に出たがらない傾向が長年続いている。子どもの時からの家庭教育なのかもしれない。

Ｄ委員　　お母さんが前にでると、おじいさんやおばあさんに出すぎると言われるという話を何人か聞いたことがある。町内会もお母さんではなく、お父さんが出ればいいというのはあると思う。子育て、介護はお母さんの仕事で、他はお父さんがやるという家庭内での役割分担もあると思う。女性の意識が低いというよりも、そうせざるを得ない。時が経って教育も変わってきているので、今の子どもたちが大人になると、変わっていくと思う。

Ｇ委員　　２０年くらい前にも同じような話があって、男女共同参画は今は必要だけれど、２０年後にはかなり変わると思っていた。当時４０歳くらいの世代の方が６０歳になれば、子育ての祖父母の姿が少しずつ変わり、若い人はそれを見習って変わる期待があったが、２０年経っても先に進まない。世代交代より、習得してしまう。若い時は違う考えがあるのに、長く生活をして経験を経るうちに変質していく。嫁の最終結論で、従っていた方が争わない。最初は葛藤するだろうが、黙って従うと同じような行動をし始めて、世代交代にはならなかったというのが、私の感想である。

Ｃ委員　　介護の仕事でいろいろなお宅を訪問して思うが、昔は介護は家族がするものという認識がすごくある。今の８０代、９０代くらいの方は、介護サービスを使うことに拒否的で、私の面倒は嫁が看るものという認識が強く、サービスをなかなか受けたがらない方が多い。そうなるとお嫁さん世代や団塊の世代の方が家庭内介護を強いられる状態になっている傾向が多いと思う。今主介護者となっている６０代、７０代の方が、子どもが結婚して孫ができると、お嫁さんは働かなければいけないから子育てをお願いされ、孫育ても、介護もしなければならないという、家の中でダブルワークをしている方も複数いる。介護は家庭で担うものという考え方は、今の３０代くらいの子どもがいる世代の方には馴染まない。私達は介護もするし、孫の子守りもするけど、それを次の世代には残しておけないと思っている方が複数いる。若い頃病気になられて、７０代くらいでサービスを受けている方のお子さんで、４０代くらいの方はこういう介護状態になったら介護サ

ービスを受けるのは当たり前という形で、自分達で介護を担おうとしない方が増えていると思うので、時代が変わるのはもう少しという感じもする。今の６０代、７０代の主介護者となっている方達が自分達がされたことを次の世代に返さないようにしないと思うようなことができればよいと思う。また、それは間違っていると言える若い世代を育てていくことも大事だと思う。中学生の意識調査を見ると、男女は平等なのが当たり前という考えも見えるので、介護は女がするものだと言われても、違うと正々堂々と言える人達を育成していければよいと思う。

Ｆ委員　親の介護を一番長くて４年した。夫と２人で介護をしていたが、体が動かなく、認知症もあり、どっちが会社を辞めるという話までした。中越沖地震がきっかけで家では看れなくなった。家が傾いて水が出ない、どうしようかという時にショートステイに行き、家に戻すのは無理で別の所に入った。今同じことをしろと言われてもできない。自分の子供に同じことをさせようとは絶対に思わない。

Ｇ委員　保育園と同じで、預けて働きたいと言っても、お金のために預けられないという、経済的な問題が起きてくる。

Ｃ委員　矛盾がでてきていると思う。

Ｅ委員　私くらいの年齢の人に会って話をすると、最近は奥さんに自分の親だから自分で看てと言われる男性が多くいる。

人権啓発・男女共同参画室長　介護をしないと決めつけている人達も増えてきているか。

Ｃ委員　いろいろな事情があるのも分からなくはないが、サービスにお任せというところはある。そうすると費用負担が発生するので、バランスをどうとるかというところで、十分な介護が行き渡らないまま、不幸な結末になる方もいる。ネグレクトや虐待につながることもある。柏崎は介護サービスが充実していない市だと思う。家での介護が難しい状態になった時に、お金を払ってでも施設に入れたいという方がいても、有料の施設でさえも待機状態があるという現実はどうなのか。市外の長岡や上越まで探しに行かなければならない現実というのは矛盾していると思う。そうなると女性が活躍したくてもできない現実問題がある。働きながら家で介護を続けたいという方にしても、柏崎はデイサービスは充実しているが、ショートステイはどんどん閉鎖しているので、使いたい時に使えない。２か月先の予約をとらないと、急に言われても土日はほぼ無理な状態というのは、介護の現場でも問題だと思いながらも、女性活躍にもつながっていくと思う。特別養護老人ホームも何百人と待機者がいる。お金がなくて特別養護老人ホームでないと入れない方もいる。そうすると働けなくなったり、自分の生活も楽しめなかったり、後ろ向きになってる要因の一つだと思う。

議長　介護については、質問を加えるとか、ちょっと変えてみるとか、差し替えとかあってもよい。

Ｇ委員　実態が探れるような項目にする。

議長　子育ては、待機児童はあまりいないと聞くがどうか。

人権啓発・男女共同参画室長　いない。

Ｇ委員　　待機児童はいなくても、兄弟姉妹が同じ所に入れる保証がなく、家族負担が増えているとよく聞く。私達の世代も、子どもの世話にはなれないと皆言う。だけど今の話で考えてみると、入れる施設があるだろうか。気持ちはあっても現実的には入れない。

Ｄ委員　　資料２の市民意識調査の３２ページの「市はどのようなことに力をいれていくべきだと思うか」の問に対して、５、６、７、８は共通していると思う。事業所の資料の１４ページを見ると、女性の能力を活用する上での課題として、圧倒的に「家庭生活（家事、育児、介護）の負担を考慮する必要がある」と回答している。この圧倒的な６０％とアンケートに答えてくれた女性の多くが望んでいることが合致しているということで、大きな課題、介護の部分と子育ての部分が見えてきていると思う。新たにアンケートをとるようであれば、この項目をもう少し詳細に分けて、分析して問うと、もう少し課題が絞られてくるような気がする。

Ｇ委員　　項目はあまり増やすべきではないので、精査してリニューアルさせたり、思い切って入れ替えてしまうか。

議長　　がらっとは変えられないが、理由や状態がだいたい分かっているようなところは入れないで、欲しい情報を入れていく。今出てきたようなところを事務局で整理してもらう。

事務局　　今日いただいた意見をどういう形で集約できるかを、事務局の方で検討したい。帰ってから気になる点があれば、別途自由でよいのでいただきたい。それをまとめて、こういう点をもう少し考えた方がよいという形にしたいと思う。それを次回確認いただく。市民意識調査は、来年の年度が始まると早めに調査票をまとめなければならないので、お気づきになった所を入れていただいて、来年度からすぐ調査票の案ができるようにしたいと思う。次回事務局が作ったものに多少修正が入ると思うので、最後は会長、副会長にお任せいただいて集約するような形にさせていただければと思う。

５　その他

事務局　　１２月１０日までに意見等あればお寄せいただき、まとめたものを題材にして、次回の審議会を１月下旬に開催したいと考えている。

６　閉会あいさつ（副会長）